取付説明書

ソレスタ-M
ミラーキャビネット

1. 取付前の注意

●取付けに際しては必ずこの取付説明書に従い正しく取り付けてください。
※この取付説明書に記載されていない方法で取り付けされ、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証を致しかねますので十分ご注意ください。
●「保証書（取扱説明書裏表紙）」は貴店名、取付日を忘れずに記入の上、必ずお客さまにお渡しください。
●取付業者様は、商品に欠陥を生じさせる可能性を有しているゆえに、取付業者様が欠陥を生じさせた場合は過失責任を負うことを十分にご認識いただき、お客さまが安全で快適にご使用できるようにご協力ください。
●付属部品の内容と数量が合っていることを確認してください。

安全のために必ずお守りください

ここでは取付けに際して守らないと人身事故や、家財の損害に結びつく注意事項を挙げています。
取付前にこの項目をよくお読みいただき、正しく取り付けてください。

用語および記号の説明

⚠**警告**‥ 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。

⚠**注意**‥ 取扱いを誤った場合に、使用者が重傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠ ‥‥‥「注意しなさい」

🚫 ‥‥‥「してはいけません」

🚫 ‥‥‥「分解してはいけません」

❗ ‥‥‥「指示通りにしなさい」

⚠ 警告

🚫 **ストーブやヒーター等、熱を発生するものの近くに設置しないでください。**
火災、変形や変色を起こすおそれがあります。

🚫 **電源プラグ付コードなど各配線に、以下のことをしないでください。**
・傷つける。・無理に曲げる。・無理な力を加える。
・束ねる。・重いものを載せる。・挟み込む。
火災、漏電や故障のおそれがあります。
接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電のおそれがあります。

🚫 **改造はしないでください。また、修理技術者以外の人は、分解したり修理したりしないでください。**
火災、感電、ケガ、故障のおそれがあります。

❗ **電気工事は電気設備技術基準、内線規程など関連する法令・規定に従って必ず電気工事士の資格を有する者が適切な方法で行ってください。**
無資格者の工事や、電気工事士による不適切な工事は、火災や漏電を引き起こすおそれがあるほか、関係法令により処罰されることがあります。

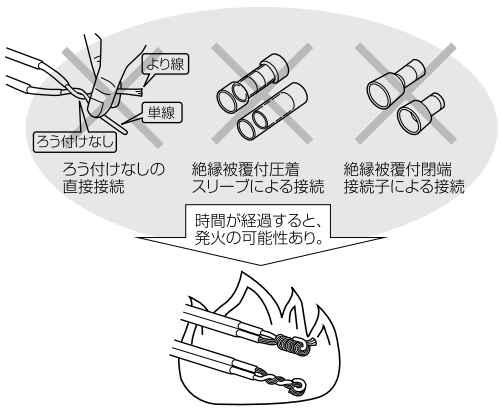
❗ **電気工事は必ず分電盤のブレーカーを切って行ってください。**
感電のおそれがあります。

❗ **電源はAC100Vを使用してください。**
AC100V以外を使用すると火災・感電、ケガ、故障のおそれがあります。

❗ **電源は必ず専用の回路を設けて接続してください。また、電源は110V、15Aまたは、20Aの過電流遮断機の設置された回路と接続してください。**
火災等のおそれがあります。

❗ **取付けの際は必ずこの取付説明書に記載されている直結配線の方法に従って、電源接続を確実に行ってください。**
不適切な接続の場合は、火災や漏電のおそれがあります。

●不適切な取付例



❗ **ミラー、キャビネットの取付けは、建築壁の構造を確かめて正しく取付ける。**
石こうボード・モルタル等、桟のない壁への取付けはおこなわない。

大工工事(取付下地) 取付・設置

⚠ 注意

🚫 **この説明書に記載されている以外の壁仕様（ALC壁等）の場合は必ず壁を施工しなおしてください。**
キャビネットの取付強度が保てず落下するおそれがあります。

🚫 **キャビネット取付壁面の不陸5mm/2mを超える場合は、壁を施工しなおしてください。**
不陸があるまま取付けすると、鏡がひずんだり割れたりするおそれがあります。

❗ **直射日光や、火気の近くへの設置は避ける。**

❗ **キャビネットを引きずらない。**
床を傷つけたり、キャビネットが破損するおそれがあります。

❗ **取付完了後は、扉の傾き・ガタつき・ヒンジのゆるみがないことを必ず確認する。**
使用中に扉が落下して、ケガをするおそれがあります。
取付・設置

❗ **取付け・仕上げ作業に使われる溶剤・接着剤・洗剤・その他薬品類については、容器などに記載の注意事項に従う。**
※正しく使わないと人体に影響が出たり、使用部材の破損や、劣化の原因になります。
取付・設置

お願い

直射日光が当たる場合は必ずカーテンなどでさえぎってください。また、スポット照明や殺菌灯を直接当てないでください。
変色や変形の原因になります。

酸性、アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコール等の溶剤や油類を使用して本体をふかないでください。
変色や変形のおそれがあります。

壁面工事や建築仕上げ工事に使われる溶剤・接着剤・洗剤・その他の薬品類は、容器などに記載の注意事項にしたがってお使いください。人体に影響が出たり、使用部材の損害や劣化の原因になります。

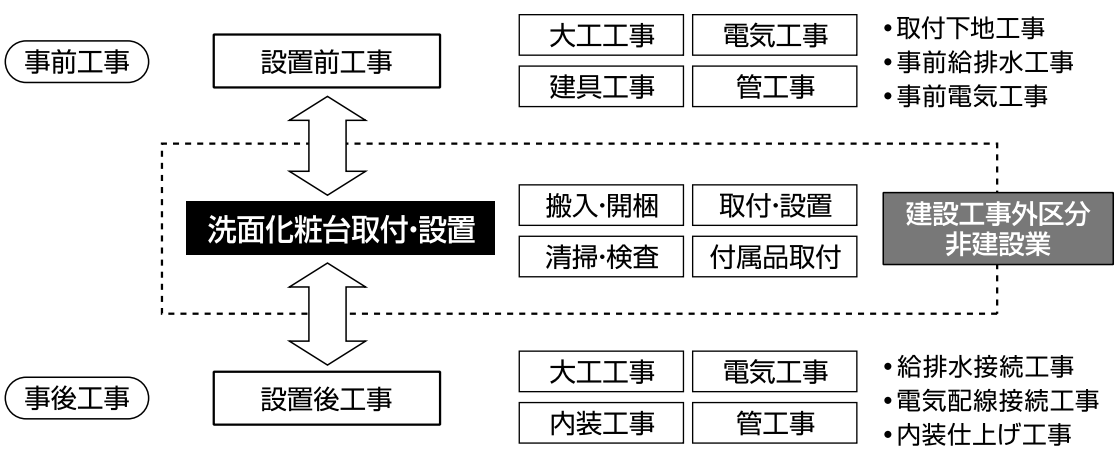
株式会社 LIXIL
お客さま相談センター商品相談窓口　ナビダイヤル　☎0570-01-7173
平日「9:00～18:00」対応　土日・祝日「9:00～17:00」対応（ゴールデンウィーク・年末年始・夏期休暇は除く）
※ナビダイヤルは、PHS・IP電話などはご利用できません。☎0562-31-0793をご利用ください。

■工事区分

■「洗面化粧台の取付･設置」とユニット工事区分

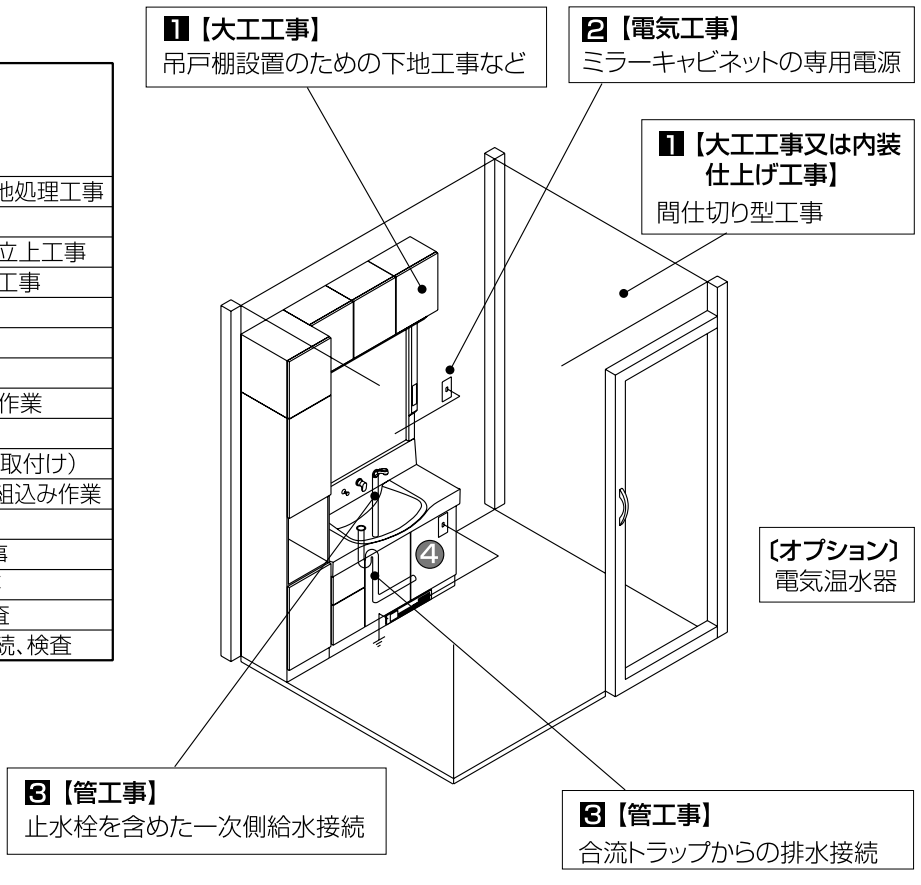
⚠ 警 告

本説明書は、洗面化粧台の本体組立・設置と関連工事（建設工事）である大工工事、電気工事、管工事（給排水）、建具工事などと区別して説明しています。
建設工事は、関連する法令・規定に従って法的有資格者による工事が必要になります。
流通業者様（販売店様など）からの発注で下請けとして「本体の取付・設置」をおこなう場合は、建設工事部分と「洗面化粧台本体取付・設置」を区別しておこなってください。



■洗面化粧台の工事区分〈例示〉

ユニット工事区分	部位（図）	区分	作業名称（区分）	建設業区分 大工工事業	管工事業	電気工事業	建設業外 洗面化粧台取付	作業内容
事前工事 建設業	1	大工工事	建築壁の下地処理工事	□				キャビネットなどの取付けの為の壁下地処理工事
	2	電気工事	ミラーキャビネットの電源工事			□		ミラーキャビネットの専用電源工事
	3	管工事	排水配管の立上工事		□			洗面化粧台排水用の所定位置排水管立上工事
			給水･給湯配管立上工事		□			洗面化粧台専用の所定位置配管立上工事
洗面化粧台本体 取付･設置	④	建設工事区分外	製品間のシリコーン塗布				○	製品間の隙間を仕上げる処理工事
			ウォールキャビネット取付け				○	所定の建築仕上げ壁へ取付ける作業
			ミラーキャビネット取付け				○	所定の建築仕上げ壁へ取付ける作業
			ベースキャビネットの取付け				○	キャビネットの組立･調整して設置する作業
			洗面化粧台排水部品の組立				○	排水トラップ部品の組立
			水栓の組立、天板取付け				○	水栓同梱部材の組立（カウンターへの取付け）
			ビルトイン機器の取付け				○	ビルトイン機器の洗面化粧台本体への組込み作業
			試運転、完成品検査				○	完成後の性能確認検査
事後工事 建設業	2	電気工事	電気配線器具の取付け			□		スイッチ、コンセント等の電気配線工事
			その他電化機器の工事			□		電化機器と電源線、アースの接続工事
	3	管工事	給水･給湯配管と水栓の接続		□			給水･給湯の一次側と水栓の接続、検査
			建築側排水管への接続工事		□			洗面化粧台排水管と建築排水管の接続、検査



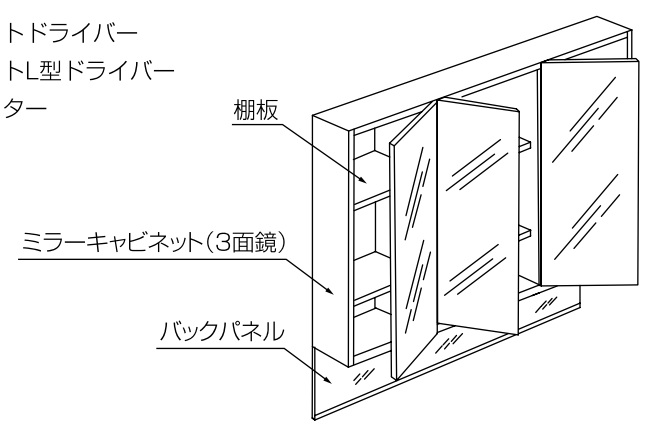
■付属部品（こちらは標準仕様です。特注により内容が変わる場合があります。）

仕様	3面鏡	2面鏡	1面鏡	バックパネル
ジョイナー	−	−	−	2本
固定用ねじ（ジョイナー用　φ4.0×25mm）	−	−	−	間口1000まで：4本 間口1010～1800まで：7本
キャビネット固定用ねじ（化粧キャップ付）（大皿フレキタッピンねじφ5.3×60mm）	6本	6本	6本	−
棚板	6枚（標準） 5枚（コンセント付）	4枚（標準） 3枚（コンセント付）	2枚	−
棚受け	24個（標準） 20個（コンセント付）	16個（標準） 12個（コンセント付）	8個	−
キャビネット連結用ねじ（化粧キャップ付）（大皿フレキタッピンねじφ5.3×27mm）	−	−	4本	−

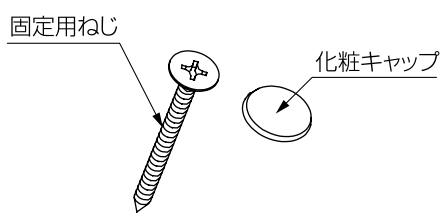
■使用工具

・電動インパクトドライバー
・電動インパクトL型ドライバー
・ガイド付カッター

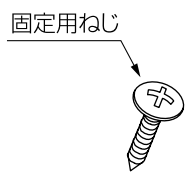
〈取付例〉



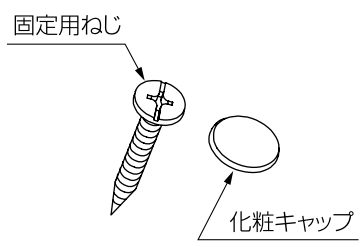
ミラーキャビネット用



バックパネル ジョイナー用



キャビネット連結用
（間口サイズ1410～1800）



2. 取付前の確認

電気工事

⚠ 警告

●配線工事は関連する法令・規定に従って、必ず「有資格者」が行ってください。

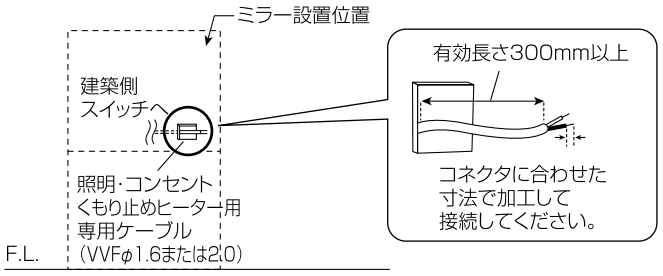
●取付の際は、必ずこの説明書に記載されている方法に従って行い、接続を確実に行ってください。

※接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電の恐れがあります。

取付前にあらかじめ承認図の所定位置にケーブルが取り出してあることを確認しておきます。

※ケーブルは、[VVF（単線）φ1.6mmまたはφ2.0mm] をご使用ください。

※ケーブルの有効長さが300mm以上であることを確認してください。



1. 壁面工事の確認

〔壁材、下地材の確認〕

●キャビネットの取付可能な壁面は（図1）、（図2）に示す

（1）乾式壁3種

（2）湿式壁2種　の全5種類の壁面のみです。

〔補強木、仕上材の厚みの確認〕

●キャビネットの取付けには、乾式壁の場合、補強木（幅90mm×厚み30mm以上）が壁面の指定の位置（寸法図参照）に必ず必要です。あらかじめ建築取付の際に補強木を設けてください。壁仕上材のみ（補強木なし）の位置にキャビネットを取り付けないでください。

●補強木の柱や、間柱への取付部材（ねじ等）は、キャビネットの固定強度（乾式壁の図を参照）と同等以上になるように種類、数を選定してください。

●乾式壁の場合、補強木手前の仕上材は壁固定ねじを補強木に届かせるため必ずトータルの厚みで12.5mm以下のものを用いてください。

●湿式壁の場合は、AYボルトをコンクリートに届かせるため、モルタル、タイルの仕上げはトータルの厚みで20mm以下としてください。また、壁本体がコンクリートブロックの場合は、中空部をモルタル詰めにしてください。

〔壁の不陸について〕

●キャビネット取付壁面の不陸は5mm/2m以下であることを確認してください。
キャビネット本体を壁に当て、壁とのすき間が5mm以下であることを確認してください。

図1 乾式壁

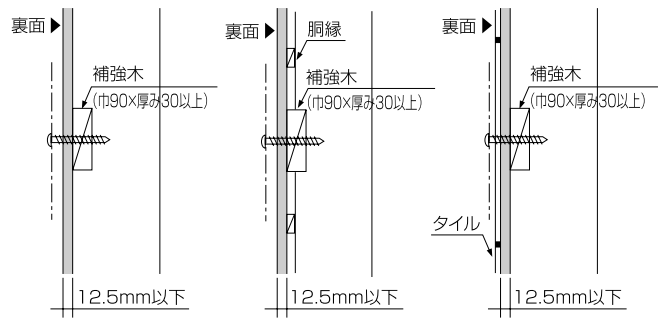
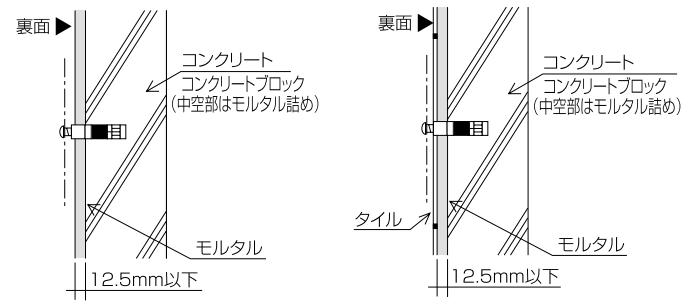


図2 湿式壁



※本文中のねじ固定に関する記載は、乾式壁の場合についてです。
湿式の場合は、下記要領で固定を行ってください。

〈湿式壁の場合の取付方法〉

①AYボルトの位置を確認し、位置出しをします。

②壁にφ7.5mmの下穴をあけ、切粉をよく取り除きます。

※下穴は電動ドリルを使用し正確にあけてください。

③AYボルトを挿入してゴム筒を押さえてボルトを抜き取ります。

④キャビネットを壁面に当て、ねじ穴からボルトで固定します。

※AYボルト品番（別途手配）

	ミラーキャビネット	バックパネル用
品番	KB-4×60SC（AY）	KB-4×60S（AY）
仕様	皿頭＋ボルト　φ4×60mm 化粧キャップ、ワッシャー付 2本入り	皿頭＋ボルト　φ4×60mm
手配数	製品間口　800～1400mm：3セット 1402～1800mm：5セット	製品間口　800～1000mm：2セット 1002～1800mm：4セット

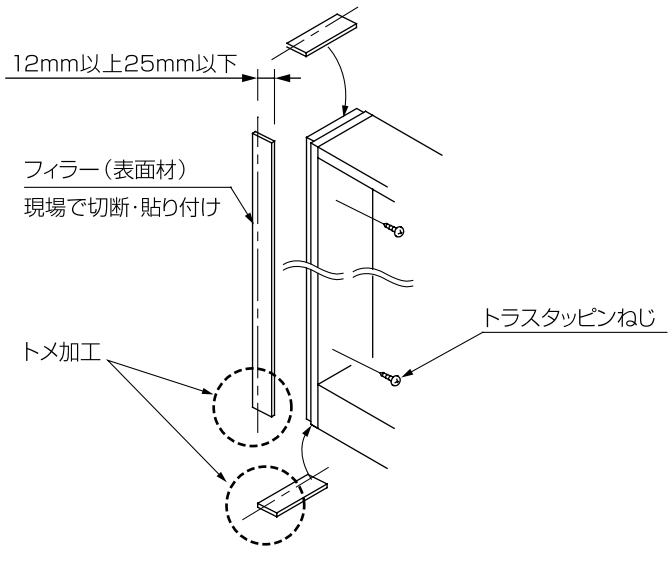
取付け穴は、穴径7.5mm、穴深さ60mm以上

2-1. 感震ロックについて

製品出荷時には、取付け時のロック防止のため、テープが貼ってあります。
ミラーキャビネット取付後にテープをはがしてください。
先にはがすとキャビネットが取付けにくくなります。
※調節方法は後述の「感震ロックの調節」を確認してください。

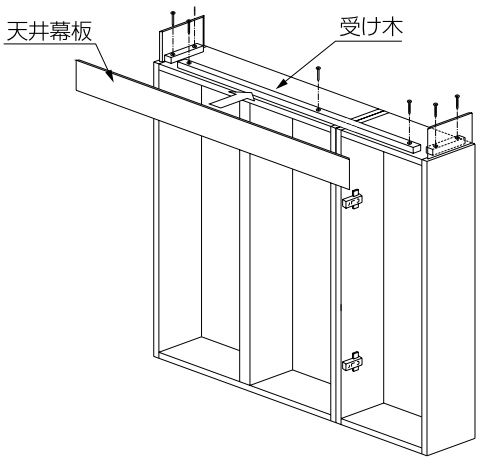
2-2. フィラーの取付け方法

フィラーが付くプランでは、キャビネットを壁に設置してからフィラーを取り付けてください。
フィラーの取付けはフィラーに同梱されている取付説明書をご覧ください。
※片側トメ加工となっております。下前に合わせてください。



2-3. 天井幕板の取付け方法

天井幕板が付くプランでは、キャビネットを壁に設置する前に受け木を取り付けてください。天井幕板の取付けは、天井幕板に同梱されている取付説明書をご覧ください。



⚠ 注意

●取付け作業の際は鏡扉をキャビネットから外してください。

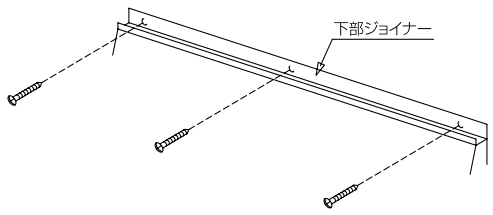
3. 三面鏡の取付け方法

●乾式壁の場合は付属のねじをご使用ください。

●湿式壁の場合はAYボルト（別途手配）をご使用ください。

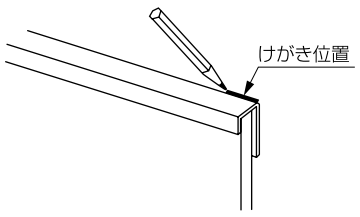
3-1. バックパネルの取付け

①下部ジョイナーをカウンター立ち上がり部上面に乗せ、両端のチリをあわせ付属のねじ（φ4×25mm）で水平に壁固定します。
※ジョイナーは必ず水平に固定してください。傾いた状態で取り付けた場合、鏡が外れてケガをする恐れがあります。

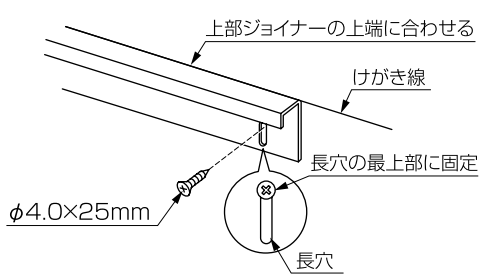


※間口によって付属のねじの本数が変わります。

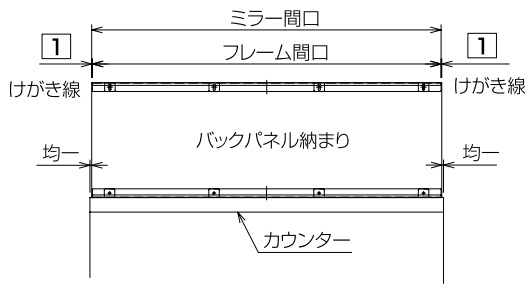
②位置決めのために、鏡を下部ジョイナーにはめ込み、上部ジョイナー（長穴）上端の位置をかげき、鏡を取り外します。



③けがき位置に上部ジョイナーを合わせ、長穴の最上部に付属のねじ（φ4×25mm）で水平に固定します。
※このとき上下にスライドできる状態にしてください。

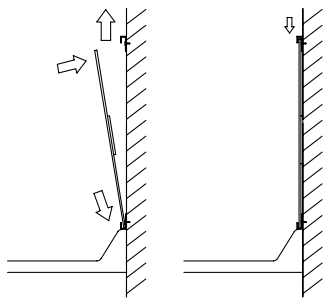


④上フレームを所定の位置まで下方に引き下げ、上下フレームが鏡より飛び出さないように位置調整し、けがき線を入れてください。（左右1mm振り分け）

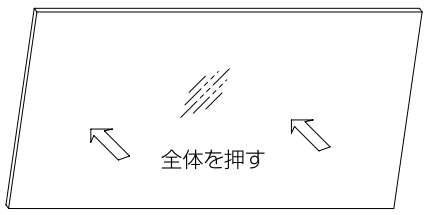


⚠ 注意
フレームが鏡より飛び出すとケガをする恐れがありますので確実に位置調整してから固定してください。

⑤鏡裏面の両面テープ剥離紙をはがし、図のように下部ジョイナーに鏡をはめ込み、上部ジョイナーをスライドさせて固定します。



⑥鏡がミラーマットになじむように鏡面全体を押してください。



3-2. ミラーキャビネットの取付け

【共通項目】

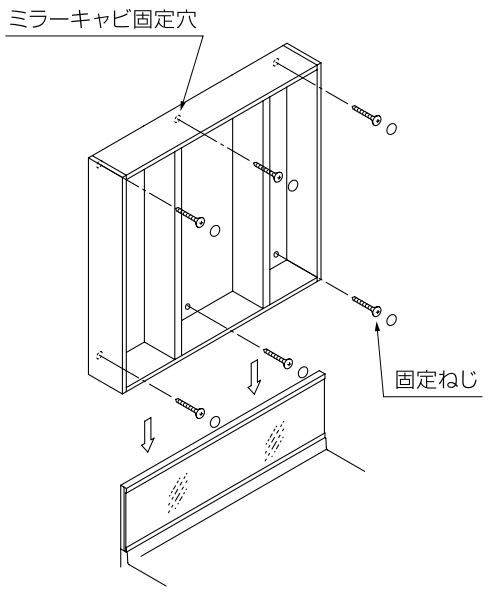
●キャビネットを取り付ける前に鏡扉を取り外してください。
（外し方は6ページ「扉の外し方法」を参照ください。）

●鏡扉はキャビネットの壁固定後に取り付けてください。
（付け方は6ページ「扉の取付け方法」を参照ください。）

●キャビネットの固定には付属のねじを使用してください。

●一体型の場合

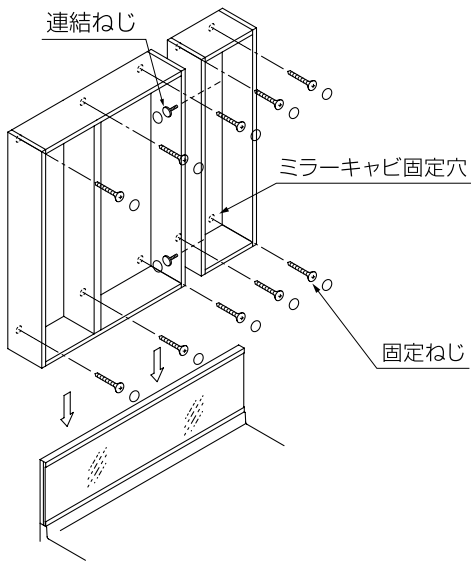
「3-1.」で取り付けたバックパネルの上にキャビネットを乗せ、ミラーキャビネット背板の下穴を背板表面からφ5.5～6mmのドリルで貫通させてから、固定用ねじで壁に6ヶ所固定します。



※固定：6ヶ所

●別体型の場合

「3-1.」で取り付けたバックパネルの上にキャビネットを乗せ、ミラーキャビネット背板の下穴を背板表面からφ5.5～6mmのドリルで貫通させてから、固定用ねじで壁に10ヶ所固定します。付属の連結ねじでキャビネットを連結してください。



※固定：10ヶ所

⚠ 注意
下穴寸法（φ5.5～6㎜）を守らないとキャビネット背板の桟とねじが干渉し下地状況が把握出来ない（落下のおそれがある）ため、必ず下穴寸法を守ってください。

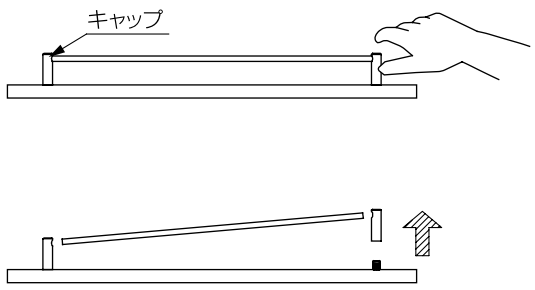
【テッシュホルダー・落下防止バー付きの場合】

⚠ 注意
●テッシュホルダー付きの場合はテッシュホルダーを、落下防止バー付きの場合は、底板に落下防止バーがついている箇所を取り外してください。 ⃠

※塗装品のためキズつきやすくなっています。
硬いものを接触させないようにしてください。
※取り外さない場合、各部材を工具でキズつける恐れがあります。

●テッシュホルダーの取り外し
テッシュホルダーの掴み、水平に引っ張ります。
●テッシュホルダーの取付け
テッシュホルダーを取り外した場所に差し込みます。
※必ず水平方向に力を加えてください。
変形・取付け不備が発生する恐れがあります。

●落下防止バーの取外し
片側のキャップを指でつまみ、上に持ち上げます。もう片方の手でバーを取ります。
※逆の手順で取り付けてください。



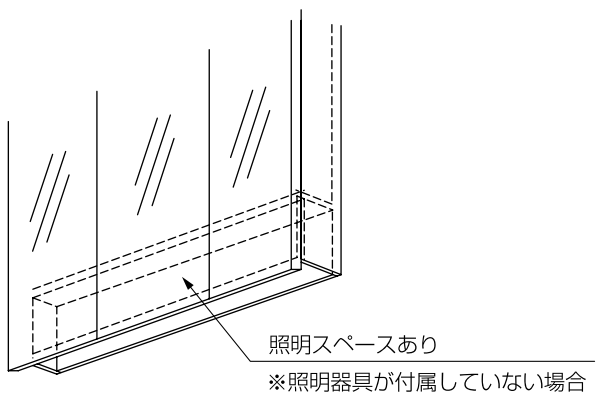
⚠ 注意

●工具を用いて取付け・取外しの行為をおこなわないでください。
※キズをつける恐れがあります。

【照明スペースありの場合】

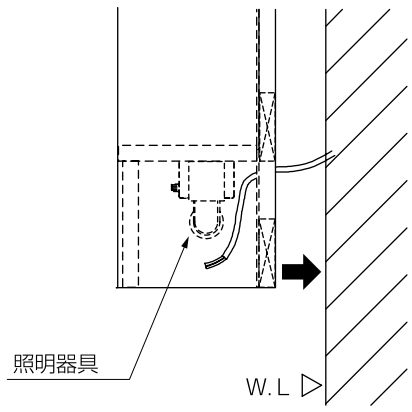
キャビネットの取付け方法については前述の【共通項目】を確認してください。

照明の取付方法については現場で手配されている照明器具の取付説明書（取付手順書等）をご確認ください。

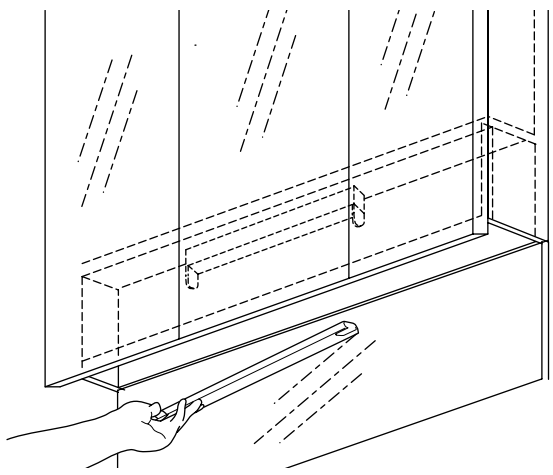


【照明付きの場合】

①キャビネットを取り付けます。
背板から照明コードおよび建築側の電源配線を手前に出してください。
前述の下部鏡の上にキャビネットをのせ、付属のねじ（φ4.5×60mm皿・連結ワッシャー・化粧キャップ）で固定します。

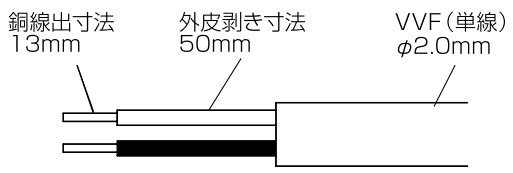


②照明器具から蛍光管と照明器具のカバーを取り外します。



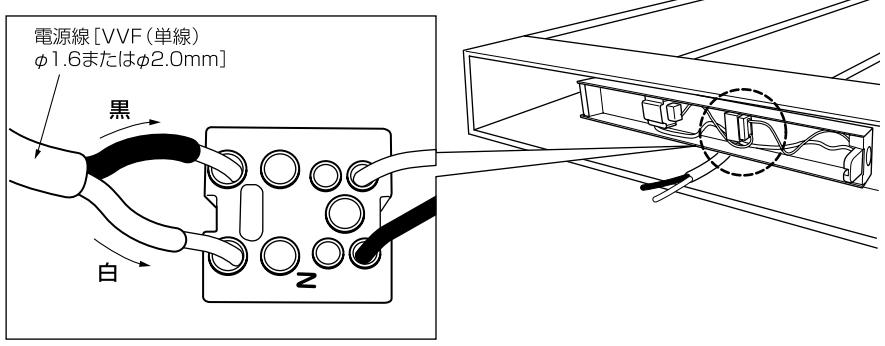
③電源線を以下のように加工してください。

ＶＶＦケーブルの被覆と外皮の剥き寸法



④電源線を照明器具に差し込んでください。
電源線は端末先端が奥に突き当たるまで必ず確実に差し込んでください。
確実に接続されているか1本ごとにかるく引っ張り、必ず確認してください。
※電源線が差し込みにくい場合は、一度照明器具を取り外し電源線を接続してください。電源線接続後に再度照明器具を取り付けます。（電気工事区分）

拡大図

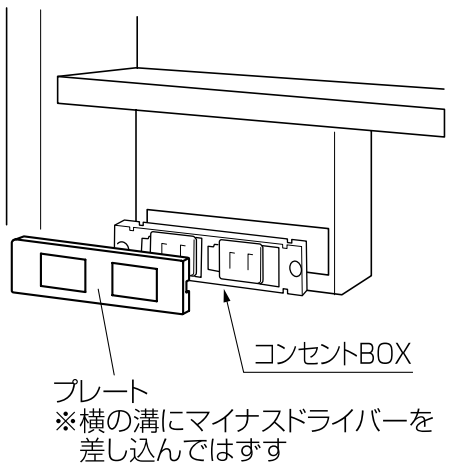


⑤配線を中に収め照明器具のカバー・蛍光管を取り付けます。

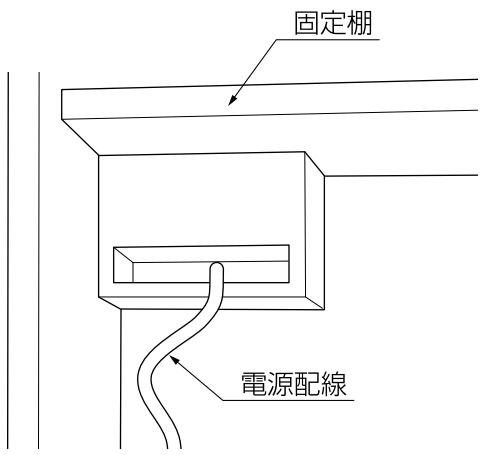
⑥鏡扉を取り付けます。
（付け方は「扉の取付け方法」の項目を参照してください。）
※一度照明器具を取り外し電源ケーブルを接続後、再度照明器具を取り付けてください。
（電気工事区分）

【コンセント（2個口）付きの場合】

①コンセントカバーを取り外し、コンセントBOXを取り外します。

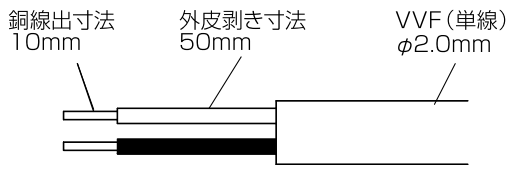


②キャビネットを取り付けます。
前述の下部鏡の上にキャビネットをのせ、付属のねじで固定します。
背板から建築側の電源配線を手前に出してください。

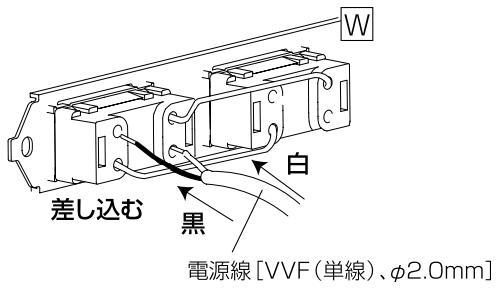


③電源線を以下のように加工してください。

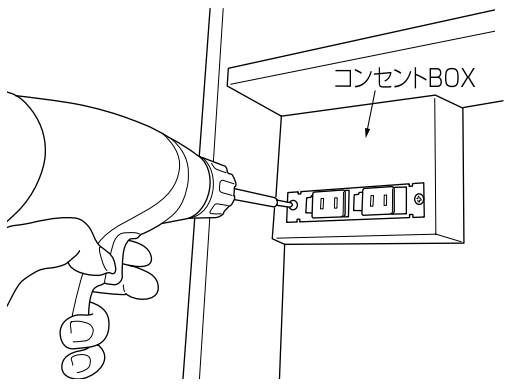
ＶＶＦケーブルの被覆と外皮の剥き寸法



④電源線をコンセントの裏側に差し込んでください。
電源線は端末先端が奥に突き当たるまで必ず確実に差し込んでください。
確実に接続されているか1本ごとにかるく引っ張り、必ず確認してください。

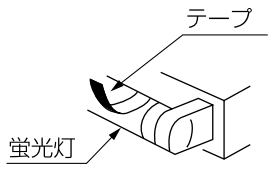


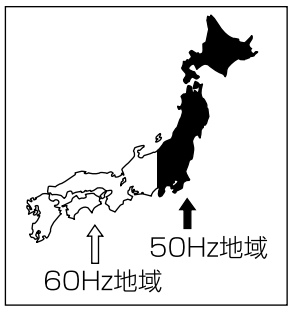
⑤配線を中に収め、コンセントBOXを元通りに取り付けてください。



4. 取付後の確認

●照明器具の確認
（1）照明器具の周波数は50Hzでセットされています。
60Hz地域でのご使用の際にはスイッチを60Hzに切り替えてください。
（2）蛍光灯の端のテープは、はがしてください。
※輸送中の破損防止を目的としたテープです。





■キャビネット本体の確認

①キャビネットの取付ねじが十分に締まっていること、緩みがないことを確認してください。
②キャビネット自体にガタつきがないこと、壁とキャビネットのすき間がないことを確認してください。
③ミラーキャビネットと化粧台バックガード部のすき間がないことを確認してください。

■照明の動作確認

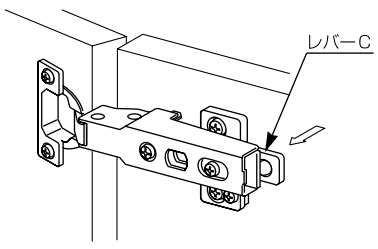
建築側のスイッチボタンを押して、照明が動作することを確認してください。

お願い
製品についた汚れは、やわらかいぬれ布巾でふき取ってください。

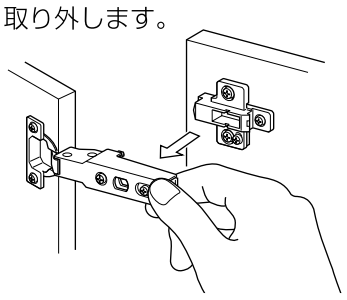
5. 調節方法

5-1. 扉の取外し方法

①蝶番のレバーＣを矢印の向きに引っ張ります。



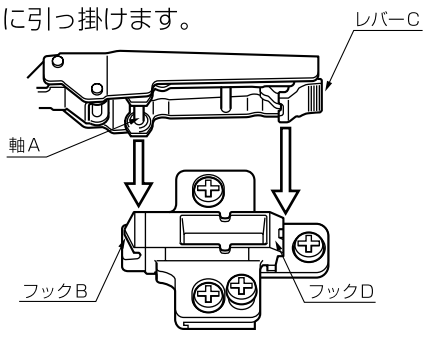
②蝶番を矢印の向きに引っ張って、取り外します。



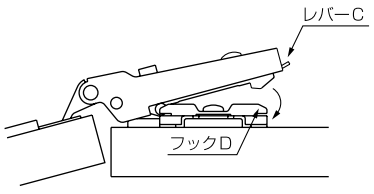
⚠ 注意
●蝶番が確実に結合していることを確認してください。
※結合が不十分ですと、扉の落下によりケガをする恐れがあります。
●鏡扉の取り外し、取付は二人で行ってください。鏡扉が重いため危険です。

5-2. 扉の取付け方法

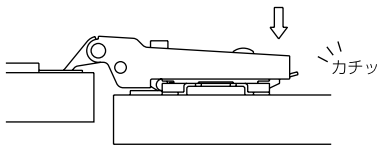
①蝶番の軸Ａをフックに引っ掛けます。



②蝶番のレバーＣをフックＤに合わせます。



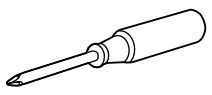
③蝶番を矢印の向きに「カチッ」と音がするまで押します。



5-3. 扉の調節

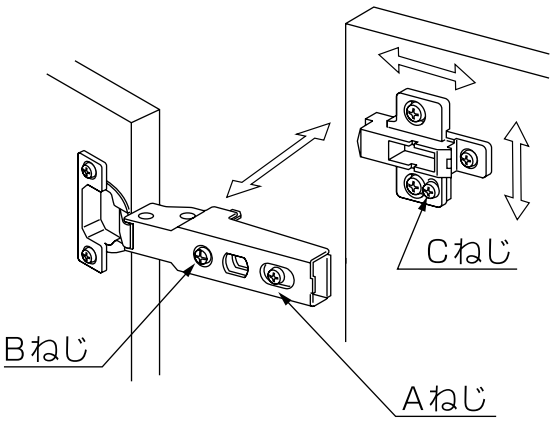
以下の要領で扉の調節を行ってください。

●準備するもの



⊕ドライバー

●取付ねじの役割



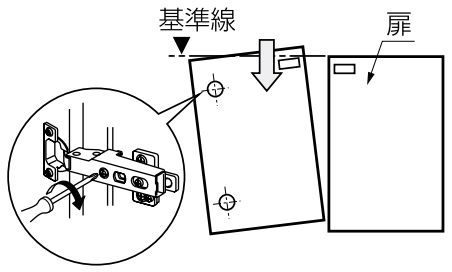
⚠ 注意
●Ａ、Ｂ、Ｃ以外のねじには、絶対にふれないでください。
※扉が落下する原因となる恐れがあります。
●扉が傾いたりガタついているときは、蝶番のＡねじ、Ｃねじを締め付けてください。
※扉が落下して、ケガをする恐れがあります。

各ねじの調節量

Ａねじ…前方向	1.0mm、	後方向	1.0mm
Ｂねじ…右方向	2.0mm、	左方向	2.0mm
Ｃねじ…上方向	1.5mm、	下方向	1.5mm

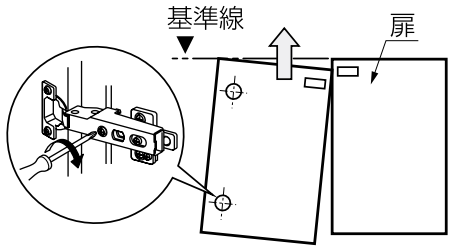
●扉の先端が上がっているとき

①扉上方の蝶番のBねじを右へ回して調節します。または扉下方の蝶番のBねじを左へ回して調節します。
②扉を閉めて確認します。
③正しい位置になるまで①、②を繰り返します。



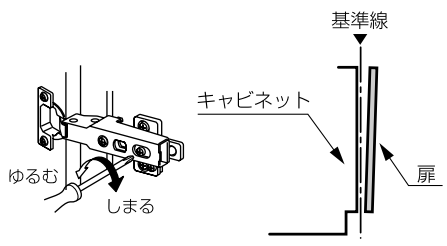
●扉の先端が下がっているとき

①扉下方の蝶番のBねじを右へ回して調節します。または扉上方の蝶番のBねじを左へ回して調節します。
②扉を閉めて確認します。
③正しい位置になるまで①、②を繰り返します。



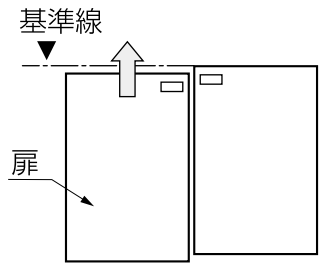
●扉と側板のすき間が上下異なるとき

①扉上方の蝶番のAねじを左へ回してゆるめ、扉を動かして前後の正しい位置にします。
②正しい位置でAねじを右へ回して締め付けます。



●扉の位置が上下異なるとき

①扉の上下の蝶番のCねじを左へ回してゆるめ、扉を上下させて正しい位置にします。
②正しい位置でCねじを右へ回して締め付けます。



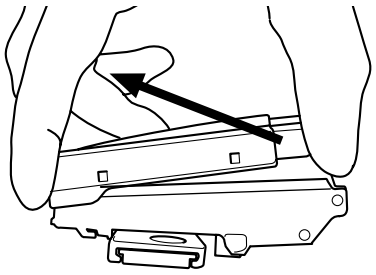
アドバイス

●Aねじ、Bねじ、Cねじは扉を取り付けたままで調節できます。
●2枚扉（両開き）の場合で、片方の扉だけで調節できないときは、左右の扉で交互に調節を行ってください。

5-4. ソフトサイレンス(蝶番用)の取外し･取付け方法

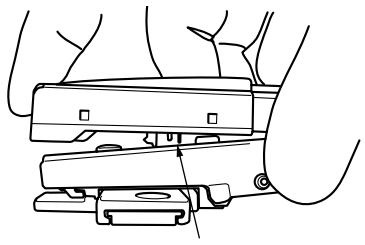
●ソフトサイレンスの取外し

親指でダンパーの樹脂部を持ち上げるようにして引き、取り外します。

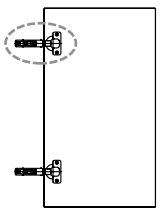
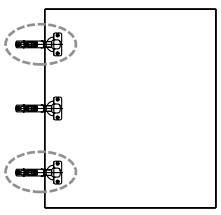


●ソフトサイレンスの取付け

ソフトサイレンスの裏側に付いている茶色のつめを蝶番の窓穴の手前に当て上から押し、取り付けます。
※ミラーキャビネット取付後に静音ソフトサイレンスを取り付けてください。



●ソフトサイレンスの取付位置

蝶番数量	2個/枚	3個/枚
ソフトサイレンス	1個/枚	2個/枚
取付位置		

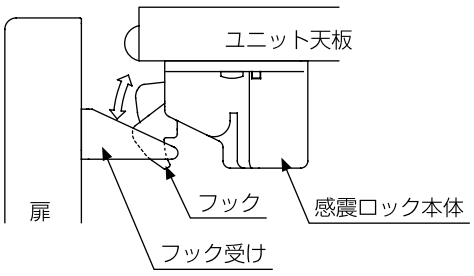
※必ず指示している位置に取り付けてください。

5-5. 感震ロックの調節

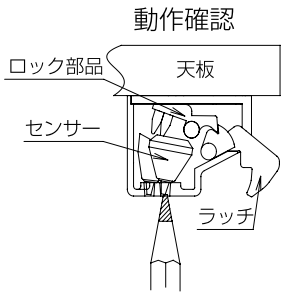
※ミラーキャビネットが、壁面および床面に対して垂直・水平に設置されているか確認してください。
※ミラーキャビネットが傾いていると感震ロックが作動し、扉が開かなくなる恐れがあります。

●取付け位置の確認

扉の調節後、感震ロック本体とフック受けが、下図のように正常な収まりになっているか確認します。基準寸法の位置にない場合は、調節してください。
※フック受けが基準寸法より上の位置にあると、フック受けが本体に当たり、扉が閉まりにくい場合があります。また、フック受けが基準寸法より下の位置にあると、ロック機能が十分に発揮されない場合があります。



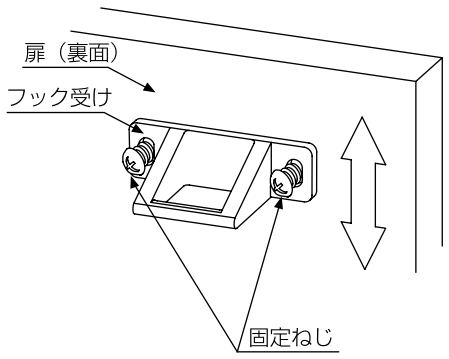
【ロック作動の確認】



本体底部に細い棒を挿入し
ラッチが下がることを確認する。

●調節方法

①フック受けを固定している固定ねじをゆるめ、長穴の範囲内(上下±1.5mm)で調節し、固定ねじを締め付けます。
※調節完了後の固定ねじの締付けは、固定ねじを空転させないようにご注意ください。
②フック受けを調節してもスムーズに開閉できない場合は扉の調節をおこない、調節してください。



●ロック解除方法

揺れや傾きを感知すると、フックが下りた状態でロック機能が作動します。
揺れがおさまり、ユニットの傾きが3°以下になると、ロックは自動的に解除されます。